

ニホンナシの簡易大苗育苗技術の開発

～施設設置と新梢誘引の時間を短縮～

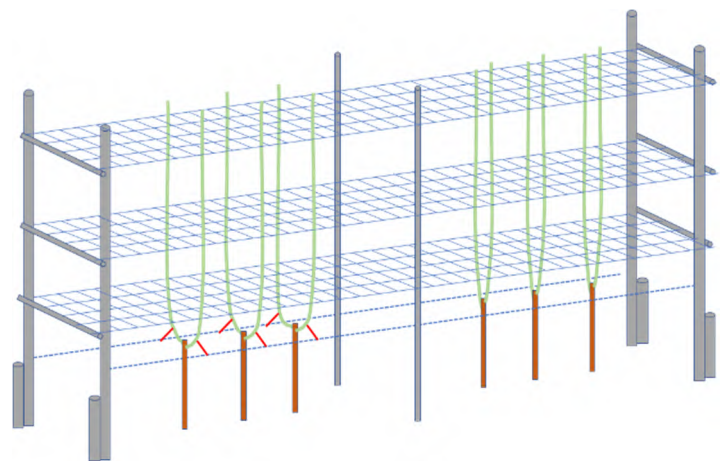
県内のナシ園では老木が多くなり改植が喫緊の課題となっています。改植には2年生以上の大苗利用が有効ですが、従来の架線式大苗育苗では設備設置と新梢誘引に時間がかかることが問題となっています。そこで、フラワーネットを用いることで作業が簡単にできる簡易式大苗育苗技術を開発しました。また、簡易式大苗育苗において単年で優良なポット大苗を育成するための栽培条件を明らかにしました。

1 成果の内容

- (1) 開発した簡易式大苗育苗施設は、新梢の伸長に合わせてフラワーネットを上方に移動させることで新梢の倒伏を防ぎます。1本ずつ誘引する必要がないので能率的で、施設の設置も容易です。ジョイント仕立て用の大苗を育成する場合、苗1本当当たりの作業時間は年間約25分と、従来の架線式大苗育苗より約17分削減できます。
- (2) 簡易式施設で大苗のポット育苗を行う際の、かん水、施肥、ジベレリン処理について適切な栽培条件を明らかにしました。毎日1Lのかん水、緩効性肥料を主体に年間50gの窒素施用、年間3回のジベレリンペースト処理により単年で優良な大苗を育成できます。



簡易式大苗育苗施設



簡易式大苗育苗施設の模式図

2 普及の状況

この技術で当センターでの苗木生産を試験的に始めました。今後現地でも普及が進むことが期待されます。

- 3 問い合わせ先 千葉県農林総合研究センター
果樹研究室 043-291-0151(代)

- 4 掲載年月 令和5年12月